

07月度 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">例会</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">個人</span> 山行報告書		報告者	町田 修	参加 メンバー	CL 町田、SL 津田 金子 藤田 天野、竹内
		報告日	7月30日		
山城	奥日光	山行日	2022年07月27日(水)		
山名	皇海山 2143.6m		~07月29日(金)		
山行目的	長時間歩行(周回ピストン)		コースタイム(天候: 天気図記号)		

配布先  
総会参加数  
山行: 1  
リーダー  
原紙:  
会事務局

ルート図(地図を見て正確に)

鋸山尾根白山より皇海山

栃木県  
日光市

7月27日  
天候: 晴のち雷雨  
<コースタイム>  
「カジカ荘」発-15:29  
一の鳥居発-16:40  
「庚申山荘」着-17:55

庚申山荘

湿った南風が列島に吹き上げる

7月28日  
天候: 晴のち雷雨  
<コースタイム>  
庚申山荘発-5:00  
庚申山着-6:07  
薬師岳着-7:32  
鋸山着発-9:07-37  
皇海山着-10:55  
発-11:22  
鋸山着発-12:30-49  
六林班峠着 13:26-32  
庚申山荘着-16:40  
発-17:02  
一の鳥居着-17:58  
カジカ荘着-18:58

<山行報告> 今回の山行、上図の様な天気図で山頂 TRY を判断した。勝算へのねらいは3つあった。一つは出発点を庚申山荘に押し上げたこと。二つ目は連日の午後雷雨に対し、稜線歩きとトラバースルートの選択肢を活用したこと。三つ目は長時間歩行に耐えられるメンバーの力量を把握していたこと。まず8/27日の入山、カジカ荘から2.5hで夕刻庚申山荘に着く。湿度の高い森の中を歩き、汗が噴き出る。綺麗な山荘で宿泊は我々6人。注目はパイオトイレ(動力で攪拌)快適に活用する。照明は無く各自ヘッドランプで食事を済ませ、早々に寝る。外は雷雨が鳴り響いていた。そして8/28日T.R.Y.日、青空である。ねらいは午前中皇海山登頂。庚申山へのルートは急登の連続で梯子や巨岩からの水滴をくぐり抜け、樹林の中の山頂に立つ。ここから鋸山へアップダウンを繰り返し1:1座を有する尾根が続く。最後の白山ピークから鋸山、皇海山の展望が素晴らしい。その後、皇海山は雲に隠れ、見ることは無かった。鋸山への取付き、ここから悪路、ヘルメットを装着し鎖とロープの連続で落石の危険もあり慎重に動く。鋸山はほぼ計画通り、4.5hで到着する。微かな電波で天気を確認する。やはり昼前後から雷雨予報。岩場を不動沢のコルまで下り、皇海山を目指す。10:55分、念願の山頂に立つ。樹林の中と雲で展望はない。しかしメンバーのテンションは高く、喜びの瞬間をカメラに納め、鋸山へ再び登り返し、雷を避けるべくトラバースルートへ下る。天がゴロゴロ唸り出した。大粒の雨が叩き付ける。六林班峠からひたすら3h尾根を巻き、沢を渡り庚申山荘を目指す。16:40分に到着する。

<所見> 庚申山荘で昨夜のデポ品を回収しカジカ荘へ、薄暗くなり始めた樹林の中を不明瞭な登山道を探しながら下る。一の鳥居に降り、ここから林道を約1hかけて歩く。昨日歩いた林道と違い、沢筋から流れ出した土石流が林道を

塞いでいる。登山靴は水溜りが泥状になり、真っ黒。這う這うの体で18:58分カジカ荘に到着する。駐車場まで泥水が

入り込み、雨の激しさを物語っている。

いやはや、大変な山行でした。宿のオーナー曰く、百名山の中でも三本指に入る悪路の山だそう。それでも我々の心の中はやり切り感で満たされていた。メンバーに感謝。



皇海山山頂

作成  
町田 修  
22.07.30